

# 3. 行政の役割 ～期待したいこと～

# いろいろなプロジェクトの中で(1)

生活者・市民:

企業や行政と話したがっている。彼らのやっていることについて知りたいこともあるし、しゃべりたいこともある。でも、

市民も勉強してないからなあ...。  
やってあげたいけれど、そんな時間はないよ。  
コミュニケーション作業って、時間かかるしね。  
ネガティブ意見は聞き飽きた。そんなこと言われたって「仕方がない...」ことばかり。  
抗議されるばかりで怖い。

どこに、なんの情報があるのかわからない。  
知りたいことが知れない。  
役所は、ぜ～んぜん、話聞いてくれない。  
なにやってもノー・レスポンス。  
一人で勝手に、環境コミュニケーション、、、  
窓口が違うとかって廻されまくるし、、、

企業や行政:

生活者やNGOたちと話したがっている。自分たちの取組みを知って欲しがっているし、彼らの意見も聞きたい。でも、、

# いろいろなプロジェクトの中で(2)

生活者・市民:

環境意識は確実に高まっている。意外と素直に企業や行政に協力したがっているし、環境関連のコトやモノに興味もある。

企業や行政の言っていることは難しすぎてよく分からないけど、最近環境に熱心なのは知っている。  
企業も行政ももっと上手に知らせてくれればいいのに。  
企業だって行政だって、良いことやっていれば褒めてあげたい。

企業や行政:

結構良いことをやっている。A社、B社、C社、、、 省、 省、、、  
etc。でも知られていないことが多い。

# 期待すること

1. 「環境政策」に関する省庁間串刺し機能の提供 = 施策コーディネーター
2. 「環境対策・事業」に関する企業間ネットワークの構築
3. 「環境」を切り口にした「生活者・市民」「NGO」「企業」「行政」共通参加型の場の提供

事例として。。。。

# 市民の環境行動実態調査

## 平成14年度～経済産業省環境政策課

「環境行動」およびその背景を収集・データベース化。

蓄積された1,541件のうち「環境に悪いと知りつつ、行ってしまう」「環境に良いと知りつつ、行えない」というネガティブなものは643件、「環境に良いと思い、行っている」「環境に悪いと思い、行わない」というポジティブなものが841件、どちらにも含まれないもの57件となっている。

行動	理由・背景
資源として使えるので、ゴミを増やさずに済むが、スーパーなどで買った肉や魚についているトレーは、回収場所に持って行かないで、ゴミとして捨てている。	食品のトレーは、近くのスーパーで集めていない。遠くまで持っていくのは大変。
ダイオキシンが発生すると思うが、新聞を燃えるゴミに出してしまう。	ゴミ出し場が遠いから。
ペットボトルのリサイクルができません。ついつい、ペットボトルを荒ゴミに出してしまいます。もっときちんとすればリサイクルになるのに、しないので、いつも資源を捨ててるかと思うもつたいなく思います。	中を洗い、ラベルをはがし、ここまでは簡単なのですが、キャップの白い硬い部分を外さないと資源にはならないと聞き、それが面倒でやめてしまいました。硬すぎて、手を怪我しやすいんですね。
米のとぎ汁を流してしまう。生活排水が川などに流れると汚染されると思う。	米のとぎ汁の使い道があまり考えられないから
焼却炉などの寿命と排ガスに良くないと思いながらも、てんぷら油を生ごみに混ぜて捨てている。	てんぷら油の処理のしかたで、他に手立てが良く解らない。
電池のリサイクルをせず、普通ゴミに捨ててしまう。	中に入っている液体などを、いまいちどこに持っていけばいいか、どう捨てたらいいかわからないから。
きちんと分別したいのだけど、どう分別してよいか迷うものを燃えるゴミで捨ててしまうことがある。	リサイクルの妨げになるが、ゴミの種類がよくわからない。

# 1. 情報の需給ギャップ ～何すればいいか教えて～

情報はあるんだけど、行動に結びつかない。何をして良いのかが分からない。

その問題があるのは情報が入るけれど、じゃあ、それで一般の私達は、どういう風な生活をすれば良いかの目標というモデルがなく、何をやって良いのかよく分からない。

「お皿を水で洗うのと、燃やすのと、どちらが環境に良いのか」分からない。環境パートナーシッププラザで聞いたら、まだ分からないと言われました。

現象だけを言う。本質的な解決方法などは取得できない。

「環境に負荷をかけない為にどういう選択をすれば良いのか」「その選択をする為の知識がまとまっているところはどこなのか」の情報が不足していると思います。

洗剤と石鹸どっちがいいのか？」石けんの方が信じられるけれど、本当はどうなの？

## 2. 情報の需給ギャップ ～ 解り易く教えて～

情報は一杯あるのだけど処理しきれていない。一般の知識のない人に分かりやすくなっているものはないと思う。

細かい数字ばかりの表は難しく分らないし、子供向けは分かり易いのですが、

「国が何とか委員会を開催した議事録が載せてあるけれど、そのまま載せてあるだけなので、まとめろよ(笑)と、思います。その辺に不親切さがあると思います。

80デシベルの騒音  
BOD30mg/L、一般の人には分らないだろうし、自分も大体分かりますが、  
実感できない。

情報が沢山あるんですが、多すぎて、ホームページの階層をたどっていくのが大変。



# 3. 政策ニーズ

～ みんなの活動・ニーズを教えて、汲み上げて～

私たちの環境活動を知って。みんなの活動も教えて。多数の人の考えを聞きたい。いろいろな人が何を求めているのかも知りたい。

環境問題に対して「学生がどう思っているか」や、「大人や社会が学生に求めていること」とか、「学生が企業に対してどういう風な事をして欲しいのか」が分からない。

情報整理がされてないので、隣りと同じことをやっていたりする。

環境問題のNGOグループがものすごく増えたのに、結局似ている団体ばかりが一杯出来ちゃう。もっとまとめて情報整理をすればいいのに。

審議会委員どうやって決めているの？。例えば大学の先生でも色んな考えの学識経験者がいるんですけど、全然論点が違う。環境省のやる色んな審議会に、いつも同じ人が入っていてそれで良いのかなと思う。

# 4 . 政策ニーズ

～ 役割分担しましょう～

いろいろな主体があってもいい。NGO、行政、企業3つの分野でそれぞれがやっていけば良い。市民もいろいろなことをやっていけば良い。

政策は色々な人みんなで考えるやり方をした方が良く  
思います。

NGOの役割は、企業の良い取り組みと  
か、行政の良い取り組みを応援して行く  
事だと思うんです。勿論監視して行くの  
も役割として大事なんですけど、ここが  
良いと、誉めたり持ち上げたり、もっと優  
位性を認めて伝えて行くことが大事。

企業がきちんとした対策をやればサ  
ポートされる仕組みを、作らないといけ  
ないと思います。そういう仕組みを作る  
為に市民が色々な意見を出し合って、  
その施策を作るところまで吸収して良  
い施策に繋げていくのが、これからの  
社会に必要なだと思います。

行政は、NGO、市民や色々な人と連携  
していけば良い。政策担当者も完璧で  
はないので、やれていないところを埋め  
ていけばいい。

# 時代と共に広がる環境変数の幅

公害要因中心 = 生活環境

+

住民意識による地域環境 = 快適環境



環境基準 ~ 環境指標へ  
環境基準のみを根拠とする環境政策の限界

環境政策に求められる範囲が広がった結果、、、  
「何をすればよいのか？」分からなくなった。

でも、市民たちは意外とシンプルな仕組みを求めているらしいのです。

どうやら、、、「お手軽な環境貢献」ならやる気はあるらしい。

## 環境行動を見ると

環境問題は認識しています！貢献したいのです。「エコな私」でありたい。

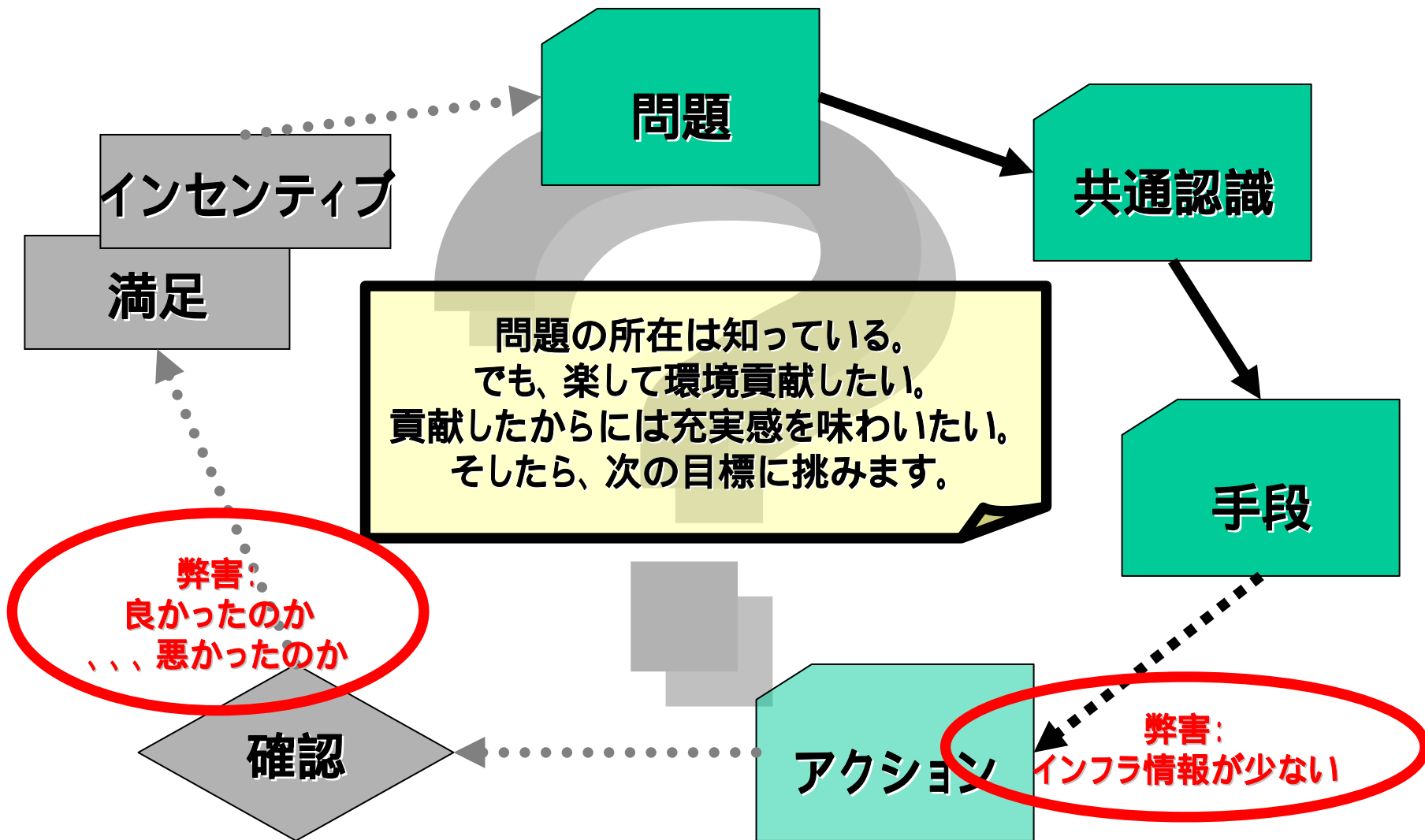
「詳しいことは解らないけど、、、  
とりあえず身近なところから手をつけています。」  
「でも、本当に環境貢献になっているのか疑わしい。。。」

、、、という人たちです。

問題意識は共有されている、、、  
リサイクル、温暖化などコア政策と、生活  
環境、子供の環境教育については前向き  
です。でも、目標などありません。



環境問題への認識はある一定のレベルまで浸透しているが、手段情報から具体的なアクションに繋ぐための情報、アクション後の効果確認情報が不足している。



# 問題提起は充分！

無理せず自然に環境貢献できること、誰か教えて。



1. 環境問題: そんなの知っています。  
日本にはごみを捨てる場所が少ない！  
ごみを焼却処分すると環境に有害な物質を出してしまう！  
有限な資源・エネルギーは有効に使わなければならない！  
自然界に存在しない物質をポイ捨てすると生物に悪い影響がある！
2. 手段: これも分かっています。  
どうすればよいの？ 何すれば環境貢献なの？ = ごみを減らす、分別排出に協力する。
3. 弊害  
協力したい、実践したいのだけど、なにしろ回収日が決められているので、時間的制約上つついとおざなりに。。
4. 対策・インフラ: そんな状況を打破するような便利ツールが欲しい！  
自分だけでは思いつかない。だから企業や国はこれを考えて！ 誰か教えて！

# 目指すべき環境状態は？

環境貢献することの  
目標を教えて。



1. 現状把握: 環境問題の所在、大枠はわかっているけど。。。どの程度なの？それをどこまで持っていけばいいの？
2. 環境貢献成果: アクションの前と後が知りたい。本当に環境がよくなっているのか確信したい。良いことをやったと確認したい。
3. 動機: エコな自分役に立っていることが分かれば、次もやります。

# ご提案

1. 「市民一人一人が何をすればいいのか」情報を市民から集めて公開。
2. 「専門的数値に頼らない環境指標」を市民に計測させて公開。
3. 「自分の活動内容」「隣の活動内容」「みんなの求めること」を発言させて公開。
4. 1. 2. 3. の推進について「市民」「NGO」「企業」それぞれに役割を与える。
5. ちゃんとやっている人、組織、企業を評価する。



# 皆が参加する場所があればすぐにできます。

1. 「こんなことすれば環境貢献」「こんな便利な環境貢献」エコ自慢の募集～表彰

私は友人から聞いた方法を早速試しています。クーラーのシーズンが終わったので、エアコンをブレーカーごと下ろしました。

Q:衣類を必要としている発展途上国の人々に古着を送る団体は？

A:日本救援衣料センター  
〒541-0052 大阪市中央区安土町1-4-9 新船場ビルB1

4. 1～3すべてにおける、市民、NGO、企業の役割分担(調査、評価)

巨大な  
バーチャルコミュニティ群



●いろいろなエリア別1000会議室●

- ・青森...というエリア
- ・省エネ...というエリア
- ・国道そば住まい...というエリア
- ・「水」...というエリア

2. 人の五感による環境指標の策定～調査の実施

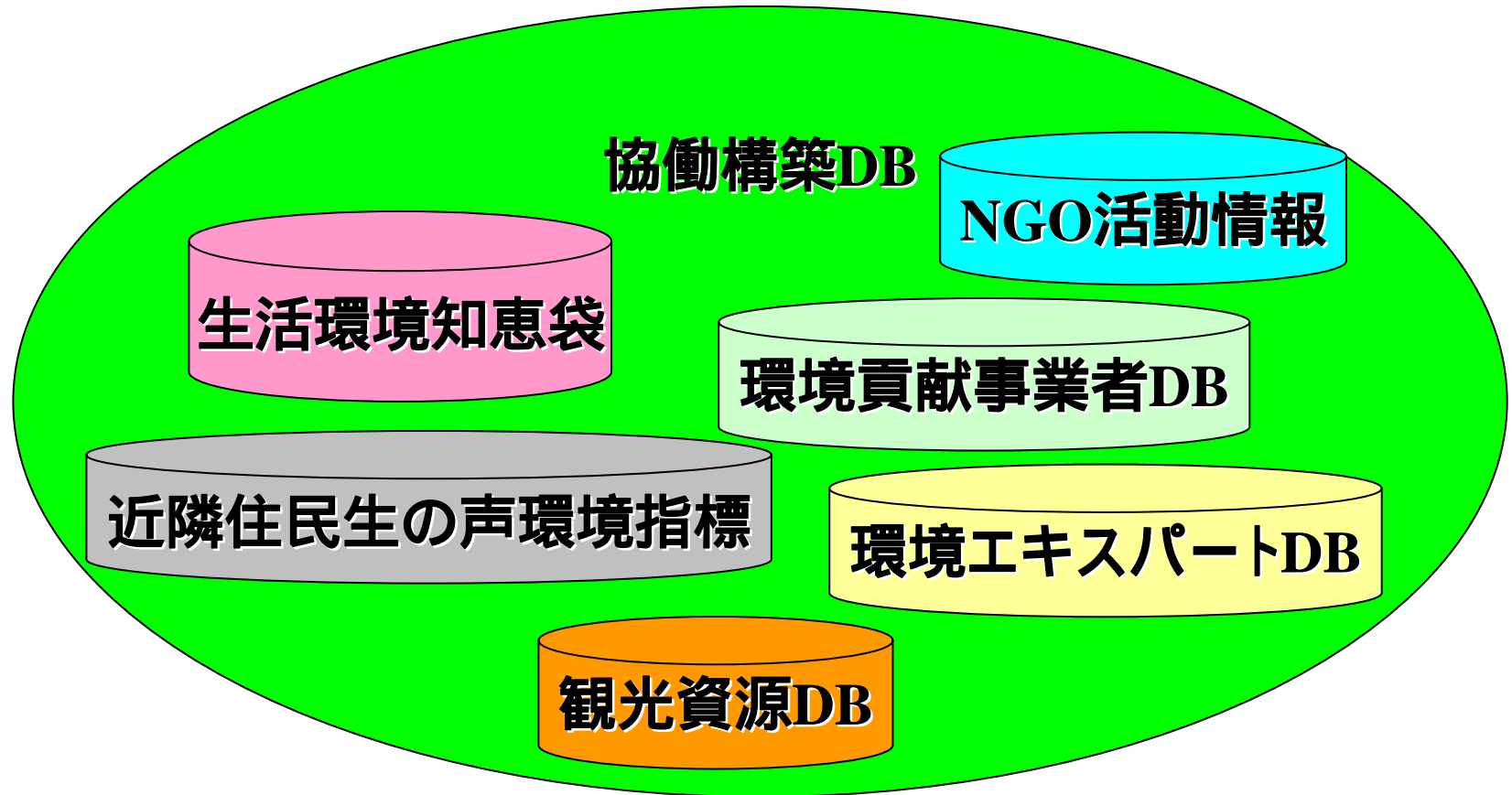
五感	観察項目	点数
見る(視覚)	水の澄み具合・ゴミの様子・周囲の景観	0～20点
聞く(聴覚)	周囲の音	0～10点
嗅ぐ(嗅覚)	周辺からの臭気	0～20点
味わう(味覚)	魚介類の味(食べてみたいと思うかどうかの評価)	0～10点
触れる(触覚)	水の感触(目で見た感じによる評価)	0～10点

三重、宮城、島根、、、、いろいろな自治体が既にやっているのに知られていない?!

3. エリア別NGO、企業、、各組織の活動PR～エリア自慢

# 巨大なコミュニティに集まる「興味」「評価」 = 巨大な優良DB

個別には、バラバラには、存在しているけど。。。



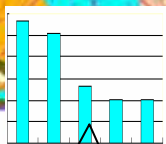
コミュニティで収集された環境関連のあらゆるデータを持ち寄って「環境GIS」に重ねてしましましょう。

観光資源データ

東京湾の生物は？

植林体験してみたいのだけど、そんな事業をやっている企業って？

五感調査結果



組織、人材マップ

神田川周辺の匂い、空気はどうなっているの？

荒川区民センターで省エネ講座を開くのだけど区内の「省エネ実践」生活者は？

レイヤーを皆で作りつつ利用する。

類似の施策はさまざまなところで実施しているのに市民たちには活用されていない?!

これらの統合の為のコーディネーション、実際に使える代物にするための取り纏め役が不在。

行政等から提供されるツールが市民に活用されない理由として  
実際に上げられた意見

発信したい情報と受け取りたい情報のズレがある。  
受け手である市民のニーズを生かすために、市民自身をツール作成に参加させるべき。  
縦割り行政だから、どこに行ったらいいか、聞いたらいいか分からない。